

# サロン(談話室)

ひかりが丘 町内会館

4月27日: 第四水曜日

時 間: 午後 1:00~4:00.

\* 酒井先生による横浜の古い歴史を  
ひもといて頂きます。

どうぞ、お気軽にお立ち寄りください。

高年部が計画していた4月3日の歩こう会「横浜山手の丘の洋館と公園めぐり」が雨天のため中止となりましたので、コースの設定と案内をお願いする予定だったひかりが丘在住のn金沢文庫の説明員もされていました横浜の歴史に詳しい酒井さんに当日のコースに従って、明治時代に建てられた山手の洋館についての話を聞きました。

横浜の昔を話される酒井さん



以下の案内書は、酒井さんが作成し、歩こう会のために用意されたもので、サロンでの話のテキストにも使用されました。

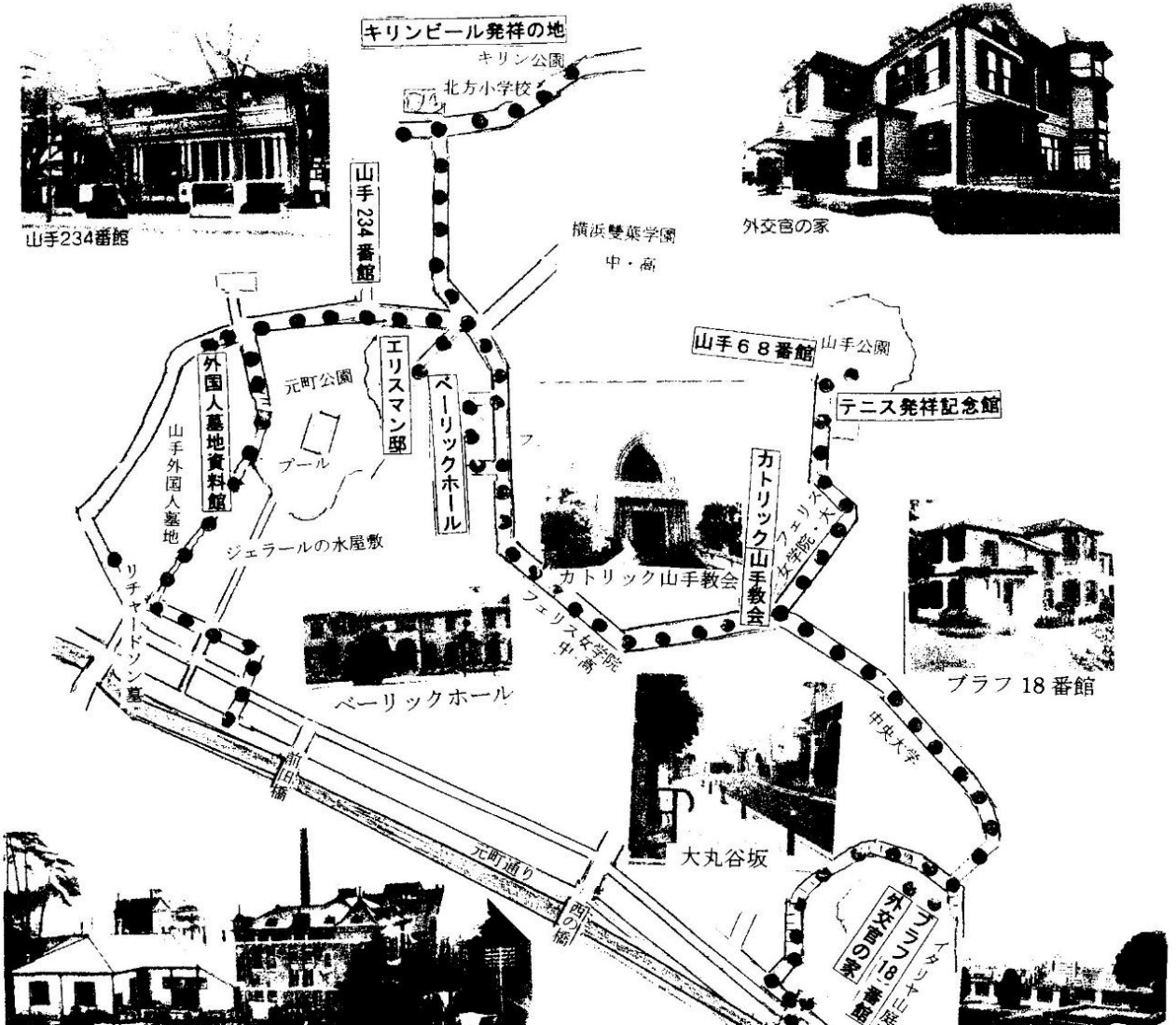
ひかりが丘町内会 歩こう会

# ～山手の丘の洋館と公園めぐり～

日時 平成28年4月3日(日) 9時

集合場所 富岡第四公園下段広場

**コース** 京急富岡 → 杉田 → JR新杉田 → 石川町(徒歩) → ブラフ18番館・イタリア山庭園・外交官の家(見学) → 山手本通り → カトリック山手教会 → 山手公園(昼食) 山手68番館・テニス発祥記念館 → ベーリックホール → キリンビール発祥の地・キリン園公園 → エリスマン邸・元町公園 → 山手234番館 → 外国人墓地資料館・山手外国人墓地・リチャードソン墓 → 元町本通り(解散)



山手地域は幕末から明治にかけて数多くの外国人が来日し、開国後の日本の種々の分野で活躍した。外交官、教育関係者、技術者、宣教師や修道女、貿易商人、ジャーナリスト等、日本の近代化の推進に外国人の果たした役割は大きかった。

横浜外人墓地は安政年間の設営に始まり4千余りの外国人が眠っている。ひっそりと永い風雪に耐えた墓石は胸をうつものがある。

#### **大丸谷坂**

明治期には横浜を訪れる船員たちで賑わった繁華街であったが 関東大震災の際、下から吹き上げる火災で多くの人がこの大丸谷坂を登り避難したが、この地区での犠牲者27名の供養として地藏尊を建立した。

#### **プラフ 18 番館**横浜市認定歴史的建造物。

大正末期に建てられた外国人住宅でカトリック山手教会の司祭館として平成3年(1991)まで使用されていた。平成5年(1993)イタリア山庭園内に移築復元され、館内では震災復興期(大正末期～昭和初期)の外国人の暮らしを再現し、当時の横浜家具の復元展示するなど当時の暮らしを感じることができる。

#### **山手イタリア山庭園**

イタリアでは多く見られる庭園様式を模し、水や花壇を幾何学的に配したデザインの公園。明治13年(1880)～19年(1886)までイタリア領事館がおかれたことから「イタリア山」と呼ばれているこの場所は、みなとみらい21地区やペーブリッジ、晴れた日には富士山を一望することができる。

#### **外交官の家**・国の重要文化財

明治43年(1910)明治政府の外交官内田定槌邸としてアメリカ人建築家J.M. ガーディナーの設計により渋谷区南平台に建てられ内田氏の孫から建物の寄贈を受けた横浜市が平成9年(1997)この地に移築し復元し、同時に国の重要文化財に指定された。木造2階建・塔屋付きでアメリカン・ヴィクトリアン様式を基本としている。

#### **カトリック山手教会聖堂**・横浜市認定歴史的建造物・

開港後、キリスト教は厳禁であるが、条約により居留地にいる外国人の信仰は認められていた。外国人が多くなるにつき教会建設の動きがおこり文久元年(1862)1月、屋根に十字架をつけた天主堂が完成した。その直後日本人の見物客が多く集まり50人が神奈川奉行に捕らえられた。居留地内でも日本人の信仰の自由は許されなかった。後、山手に移り(現在地)カトリック山手教会となった。西欧中世のゴシック風の外観は素晴らしく目を留める。

#### **山手公園**

明治3年(1870)居留外国人専用公園として居留外国人たちの自己資金で造園された日本初の様式公園で平成16年(2004)に市内初「国の名勝」に指定された。

**山手 68 番館**・**テニス発祥記念館**山手公園内**テニス発祥の地**明治11年(1878)外国人専用として5面のコートが作られ、日本で初めて近代テニスが行われるようになった。

### **ベリックホール**・・横浜市認定歴史的建造物。

イギリス人貿易商 B.R ベリック氏の邸宅として J.H モーガンの設計により明治5年(1930)に建てられた。スパニッシュスタイルを基礎とし戦前の西洋館としては最大規模を誇る。建築学的にも価値ある建物である。

### **エリスマン邸**・・横浜市認定歴史的建造物。

由来・・関東大震災で大きな被害をうけた。大正15年(1926)白い壁と緑の縁取りも鮮やかな西洋館が現れた。設計は日本現代建築の父 A. レーモンドである。横浜の絹糸貿易商シーベルヘグナー商会の支配人であったスイス人エリスマンの私邸として山手127番に建てられた。第二次世界大戦では被害を免れ、所有者が転々としたものの、戦後までその美しい姿をとどめていた。昭和57年(1982)集合住宅「クレスト山手」の建設で解体されることになった。当時の所有者永井商事の協力により市が調査を実施したところ歴史的に価値の高い洋館であることがわかり、将来の移築復元を期するため、部材が所有者から横浜市に寄付され、平成元年(1989)市はこれを元町公園に移設復元し平成2年春「エリスマン邸」と名づけ公開した。

### **麒麟ビール発祥の地**・「麒麟麦酒開源記念碑」「文化遺跡日本最初の麦酒工場跡」

コーブランドはノルウェー生まれ、若くして5ヶ年ビール製造学を学び、のちアメリカに渡り帰化し、元治元年(1864)11月9日W.コーブランドは来日した、運送業に従事した。北方の天沼一帯は良好の水があることからビール製造を思いつき明治2年(1869)山手123番にスプリング・ヴァレー・ブルワリーを設立し、ビール醸造が行われ、この製品はビアザケと呼ばれ外国人の交際に盛んに利用された。夫人が22才で横浜で亡くなり、日本女性勝俣ウメと再婚した。その後、コーブランドが手離したあとタルボットらの経営によりジャパン・ブルワリーができ「麒麟ビール」を売り出した。のち、日本人の経営に移り関東大震災後、生麦に移転するまで操業を続けた。北方小学校校地にはビール井戸の遺構、や隣接し麒麟園公園やビール誕生を讃える、大きい記念碑や昭和32年横浜ペンクラブによって対照的な記念碑が建立されている。

### **山手234番館** 横浜市認定歴史的建造物

昭和2年、朝香吉蔵の設計により建設された外国人向けの共同住宅で、横浜市に現存する数少ない遺構の一つ。従来は4つの同一形式の住戸が中央の玄関ポーチを挟んで、左右対称に向かい合い、上下に重なっていた。1階では山手の総合案内、2階は展示や会議などに使用できる。

### **外国人墓地資料館**・山手外国人墓地

開港当時にアメリカ人水兵を葬ったのが始まりで資料館には埋葬された外国人の業績など、写真も加えられ数々の資料が展示されている。山手外国人墓地は横浜村の寺院、真言宗増徳院の境内及び村民の私有地であった。安政



元年（1854）2月来航中のペリー艦隊の水兵が病死し増徳院墓地に仮埋葬し、下田玉泉寺に移葬された。開港間もない7月27日、ロシア人2名が殺害され、壮麗なロシア人墓が最初で最古の墓石である。万延元年（1860）2月26日オランダ人船長デッケルとフォスの墓は高さ5m、ピラミット型の巨大な墓。近くに文久2年（1862）薩摩藩士に斬られた上海イギリス人商人リチャードソンの遺体は最も古い第2地区に埋葬された。更に生麦事件と記されている。

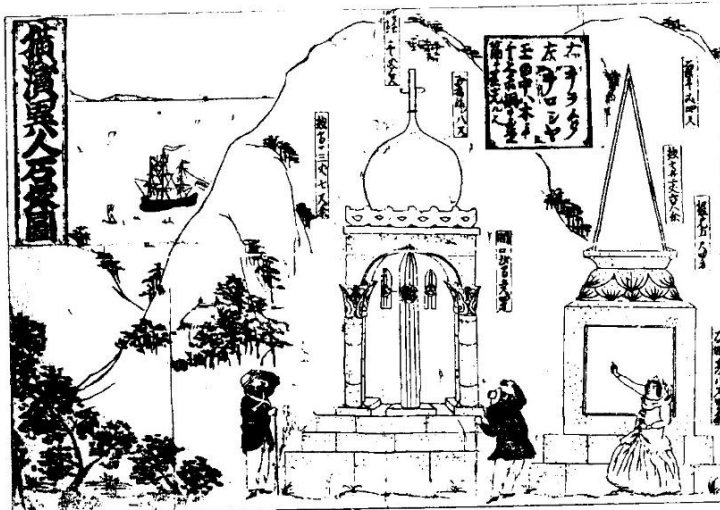
墓地拡張のため墓地に隣接した山林を買い上げ増地など再三拡張し合計6,151坪（約5万平方メートル）の面積が現在の墓域である。



当時の天沼風景



コーブランドとウメ夫人



瓦版「横浜異人石塚図」中央はモフェットとソコロフ、右はフォスとデッケルの墓